

IV-32 地域活動において専門技術者に期待される役割について

秋田大学 学生会員 ○鈴木 歩

秋田大学 正会員 木村 一裕

ウヌマ地域総研 正会員 藤田 勝

1. はじめに

現在、まちづくりや社会資本整備において、住民参加の必要性が認識され、様々な活動が行われている。このようなまちづくり・地域活動を行うには、住民や行政だけでなく、専門的な技術を持ち、さらに行動力をも兼ね備えたNPO等の専門組織の果たす役割が大きいものと考えられる。本研究では、活動組織の内容・特徴の把握を行うと共に、メンバーである専門技術者の活動内容や、住民から評価された専門技術や知識の把握を行った。また、このような活動を行う専門技術者自身にもたらす効果を明らかにし、参加未経験の技術者に対し参加を促すための要因を明確にすることを目的とし、調査・分析を行った。

2. 調査概要

本研究では、地域活動においてNPO組織の果たす役割を明らかにするために、土木技術者が在籍し、まちづくりなど土木関連分野の活動を行っている全国のNPO組織を対象に、「組織用アンケート」と「専門技術者用アンケート」の2種類のアンケート調査を行った。調査方法は、インターネット等で調査した92団体にメールにて協力を依頼したもので、現在7組織18名の方から回収した。なお、現在4団体から回収予定である。調査概要を表-1に示した。

表-1. 調査概要

調査対象	全国のまちづくりNPO組織
調査日	平成16年12月
調査対象組織数	92
回収数(組織用)	7
回収数(専門技術者用)	18
回収率(組織用)	7.6%

3. NPO組織の概要と活動の効果について

現段階の調査対象となっている7組織の概要を表-2に示す。参加者の年齢は30代、40代、50代でおよそ85%を占めており、退職後の技術者の参加が少ないことがわかる。退職後の時間を多く有している技術者の参加促進がこれからの課題であると考えられる。また、設立時期は全ての組織で平成10年以降となっており、NPO法の施行後に増加した傾向がうかがえる。

また、活動分野としては、「まちづくり」が最も多

表-2. 主な調査項目と集計結果

主な質問項目	集計結果
1 年齢	「30代以下」20%、「40代」39%、「50代」27%、「60代」16%、「70代以上」16%
2 性別	「男性」87%「女性」13%
3 職業	「土木系会社員」63%、「土木系公務員」6%、「建築家」19%、「その他」12%
4 設立時期	「平成10以前」14.3%、「平成11年」28.6%、「平成13年」14.3%、「平成14年」28.6%、「平成15年」14.3%
5 報酬	「無償」42.9%、「一部無償」42.9%「有償」14.3%
6 協力体制	「県庁」42.9%、「市役所」71.4%「大学」42.9%、「その他」71.4%
7 人材育成	「講演会・啓発活動」85.7%、「WSへの参加促進」57.1%、「要請講座の開催」14.3%、「その他」14.3%

く60%であり、次いで「環境保全」20%となっている。その他、「防災」「福祉」「緑化」「道路改善」「河川保護」などがある。

4. 技術者の専門性と具体的な事例

活動の一例として、富山県のNPO組織の事例では、「仮想の建物・まちづくりゲーム」(内容:都市計画がまちづくりに与える影響を視覚的に実感することができる)という、他の技術者には見られないような特徴的な活動を行った。また「まちなか市場の実行委員」として、まちなか市場の開催に携わるなど、参加意欲の湧くような活動を行ったものもあった。このような活動の専門性を分類すると、「説明」や「コーディネート」、「指導」など表-3に示すように8つに分類することができる。

表-3. 具体的な専門性と内容、評価・成果

専門性	具体的な事例の内容	専門性に対する評価・効果
①説明	まちづくりに関する事業手法の仕組みや特徴を説明できる。	市が進める事業内容や問題点などを理解してもらい、NPOの活動方向を認識する上で役に立っている。
②開催	土木的な文化遺産の多い地域で、見学会を開催した。	参加者の好評を得た。
③コーディネート	現地調査・計画策定・WSなどをコーディネートした。	専門的なことに関して、一般市民の理解が進んだ。
④運営	地域の生活インフラの現状と課題に関するWSを運営した。	自ら主体となつてわかりやすい手法を用いたので、多くの参加者から貴重な提案が増えられた。
⑤提案	環境問題について研修し、暮らしの中の課題として説明したり、環境に付加を与えない。	環境問題をわかりやすく、手軽に取り決める方法を提案し、暮らしを見直し、意識改革となるきっかけづくりができること。
⑥指導	店舗住宅の専門家による指導をした。	チャレンジショップ運営を支援した。
⑦作成	まちづくりに関する計画書や提案書を作成した。	住民・クライアントともにわかりやすい内容であると評価を得た。
⑧参加	まちづくりコンペに参加した。	まちの美情を知り、大いに勉強になり、多くの人との交流ができた。

このような地域活動は、活動目的として「専門家のみの活動」を主とするものと、住民等との「協働の活動」を主とするものに分けられる。以下では、これら2種類の活動の特徴について考察する。

図-1は他分野への関心を表したもので、活動参加により、「協働の活動」をしている人の方がより関心を

持ちやすい傾向であることがわかる。

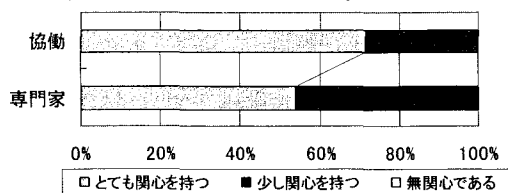


図-1. 他分野への関心について

図-2 は活動への参加意識を表したもので、こちらも「協働の活動」の方が高い傾向となり、より活動に参加することで影響を受けやすいと考えられる。

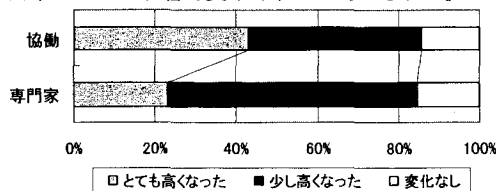


図-2. 活動参加意識について

また、図-3 は生活の変化について表したものであり、「協働の活動」は収入の使い方・時間の使い方ともに変化を受けており、専門家だけでなく、地域住民などと協働で活動に参加することで、生活など様々な部分で影響を与えることがわかる。

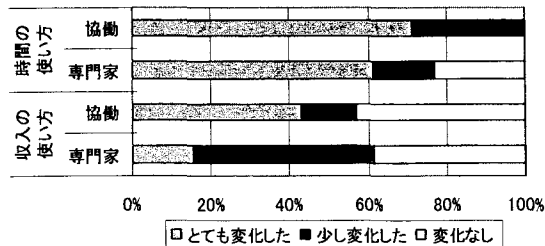


図-3. 生活の変化について

5. 活動内容の類型化と特徴の抽出

このような NPO 活動への技術者の取り組み方について、数量化Ⅲ類を用い、その特徴や要因の抽出を行った。使用したカテゴリは、前章で考察した活動参加意識、生活の変化、満足度、さらに専門外の方から評価された満足度などである。図-4 のカテゴリプロットにおいて、第1軸の負の位置に「収入の使い方変化あり」、正の位置に「時間の使い方・変化なし」が布置していることから、活動が技術者に与える生活の変化に起因する軸と解釈した。第二軸の負の位置に他者からの「評価満足度・不満足」、正の位置に自己の「活動満足度・不満足」が布置していることから、技術者における活動の評価軸と解釈した。また、サンプルプロ

ットより、グループⅠ～Ⅳを設定し、各グループの特徴を表-4 に示した。

表-4. 各グループの特徴

グループ	布置しているカテゴリ	特徴
グループⅠ	地域が活性化されて嬉しい 年下との交流が増加	まわりからの評価は満足できないが、積極的に活動に参加している技術者グループ
グループⅡ	評価満足度・満足 参加意識変化なし	やらされていると感じながら参加している技術者グループ
グループⅢ	参加意識増加	参加することで、参加意識が変化し、生活も変化しやすい技術者グループ
グループⅣ	活動満足度・増加 自分にとって楽しい	活動に満足して、自分自身への還元にも満足している技術者グループ

グループⅠは他者からの評価は不満足であるが、参加者自身は積極的な集合である。グループⅡは受動的な活動を行っている集合である。グループⅢは積極的であり、生活へ影響を受けやすい集団である。また、グループⅣは満足しており、積極的に参加している集団である。また、第一軸の寄与率は30%であり、第二軸までの累積寄与率は45%となっている。

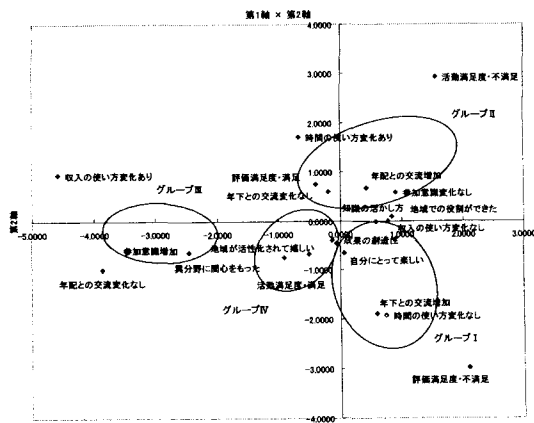


図-4. 数量化Ⅲ類の分析結果

6. おわりに

住民参加型のまちづくりに参加している専門技術者の活動は、分野・内容とも多岐にわたっており、評価は概ね高く、技術者自身の満足度も高くなっている。また、時間の使い方など技術者自身の生活や考え方にも変化が見られている。

今後より多くの専門技術者がこれらの活動に加わる上で、専門家として評価されている事柄、技術者自身にとって参加することの意義や効果をより明確にしていく必要があり、これらを今後の課題とする。

《参考文献》

- 1) 山根聡子・藤田忍・白政宏通「住まい・まちづくり分野の特定非営利活動法人における行政とのパートナーシップに関する研究」2001 年年度 36 回日本とし計画学会学術研究論文集 pp73-78